

「第10回製剤機械技術研究会仲井賞」 受賞者の選考結果について

The 2010 Nakai Award of the Japan Society of Pharmaceutical Machinery and Engineering

仲井賞選考委員長 岡田 弘 晃

Hiroaki OKADA

Chair of Selection Committee of the Nakai Award

本研究会では創立10周年を機に、平成13年より標記の賞を設定し、製剤機械技術の進歩と発展に貢献した個人又はグループの功績を顕彰しております。

本年度は応募件数が2件で、本仲井賞選考委員会（平成21年12月－平成22年1月の持ち回り審議）において、新規性、実用性、社会における貢献度の観点から、慎重かつ厳正に審査した結果、下記の2グループの候補者を「第10回製剤機械技術研究会仲井賞」受賞者として会長に報告し受賞者が決定いたしました。

記

- ・受 付 番 号：21—01
- ・受 賞 者：矢島 稔央（大正製薬株式会社）
- ・受賞業績題目：噴霧凝固造粒法による苦味マスキング技術
- ・受 賞 理 由：マスキング基剤にステアリン酸モノグリセリドを使用し、スプレーチリング法によりクラリスロマイシンの有する苦味をマスキングする技術を開発した。さらに、小児には無酸症がないことから、酸溶性ポリマーのオイドラギッドEを配合することによりマスキング能を向上させ小児用ドライシロップを開発した。また、ステアリン酸モノグリセリドは結晶多形を有するため、工程中でのアニーリングにより結晶転移を制御し、品質安定性を確保した製法を開発した。本技術の開発には8件の特許が申請され、これらの成果は学術論文及び各種学会・シンポジウム等で公表され、高い評価を受けている。さらに、企業の製剤研究において小児用製剤の開発はライフサイクルマネジメントの観点から重要な業務であり、たゆまぬ改良を重ねて、ユーザーフレンドリーな製剤開発を行い、長年にわたり本抗生物質の売上げを堅持し、医療に貢献した。以上より、仲井賞に値する業績と考える。

- ・受 付 番 号：21—02
- ・受 賞 者：長門 琢也（株式会社パウレック）
- ・受賞業績題目：コンテインメント固形製剤装置『CTシリーズ』の開発
- ・受賞理由：コンテインメント（封じ込め）に関する新技術開発（特許出願11件）により、固形製剤製造の重要工程である、造粒およびコーティングに関して、高レベルの原料粉体の封じ込めおよび自動洗浄機能を有する一連の製剤装置を開発した。また、コンテインメント技術の性能評価をSMEPAC（ISPE）により実施し、国際的に通用する技術であることを明らかにした。近年、開発が増加している高活性薬物の封じ込めおよび自動洗浄技術は、作業員への薬物暴露リスクの低減による安全性確保、クロスコンタミネーション防止による品質確保、環境保護への配慮の観点から、今後の固形製剤製造設備対応において極めて有用性が高いものと考えられる。また、当社では非常に早期よりコンテインメントの重要性が認識され、汎用性の装置に色々な技術を開発あるいは既存の技術を利用して一連の本システムを完成させた姿勢は高く評価される。以上より、仲井賞に値する業績と考える。